

# 新年のご挨拶

(平成 25 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交歓会より)

## 会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会  
会長 浜口 友一

皆さま明けましておめでとうございます。

今日は本当にたくさんの方に参加いただきありがとうございます。また、経済産業省からは中山審議官を始め幹部の皆様、そして関係団体の幹部の皆様にもお越しいただいております。本当にありがとうございます。

年が明けてほぼ一週間が経つわけですが、今年は皆さんの雰囲気が大変明るい。暮れから株価も上がりましたし、為替もだんだん円安の方向に来ているということもあると思いますけれども、政権が変わって、これからプランが確実に実行に移されていくというのが大きいのではないかという気がしています。今年は楽しいことがありそうで、いろいろなことができるのではないかという感じが強くなっていると思います。

もうすでに経済再生等で様々な施策が打ち出されていますが、何を実行するにしても、私どもの業界の IT が必要になってくると考えています。過去いろいろな国で、IT を梃子にして経済復興や産業振興など様々なことが行われてきていますが、ようやく我が国もそのスタートラインに立ったのかなという気がしています。私どもも気合いを入れてやっていかなくてはならないと思っています。

昨日テレビを見ていましたら、アメリカの CES で自動走行自動車というのが走ってました。かなり話題になっているということで、私もやはりこういうのは楽しいなと思いました。最近、私どもの業界ではトレンドの言葉として、モバイル、クラウド、ビッグデータ、M2M などが出てきています。いずれも新しいサービス・技術ということになりますが、考えてみたらこの自動走行自動車というものは、いま申し上げたような技術の結合というか結果であって、これからは我々もこういうものにトライしていかなくては行けないんだらうなと思いました。宇宙開発、医療、家庭内の電子化など様々な分野がありますが、やはり R&D を推進してイノベティブなものを作り上げていくことは、人々に夢や希望を与えるということを本当に痛感しました。

私ども情報サービス業界は、サービス化、お客様とのパートナーシップ、知識集約



化、グローバル化といったキーワードで、数年前から構造改革を進めてきています。これまでエンタープライズシステムを中心にやってきてわけですが、もう一つここから先に進めて、やはり人々が求めるもの、あるいは社会の役に立つようなものを作っていければ、本当に魅力ある産業になっていくのではないかという気がしています。サービス化というとクラウドを思い浮かべるわけですが、そういうものだけではなく、最終製品・サービスに、この業界を超えてトライしていくことが必要なのではないかと思います。そのためには、私どもの産業だけではできないので、他の企業、あるいは他の産業と手を組んで、協業して新しいものを作り上げていくということをやっけていかなくてはならないと思います。そういうことを含めて、新しい市場創造にトライしていこうということで、JISAの中でいろいろ議論していこうと考えています。そのためには私ども業界としても、いろいろやらなくてはならないことがたくさんあります。いわゆるビジネスを企画できるようなこと、それから人材の育成。技術開発。グローバル化。いろいろなことがございますけれども、そういうものに少しでもトライしていったら、できるだけ魅力ある産業にしていく必要があるのではないかというふうに思っております。

何となく明るい年になりましたので、少し大風呂敷を広げてみましたけれども、少しずつやっていけば進んでいくんじゃないかというふうに思っています。そういう夢を追いながら仕事をしていければ、今年は本当に楽しい一年になるのではないかと思います。最後に皆様方のご発展とご健勝を祈念しまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。

## 来賓挨拶

経済産業省大臣官房審議官

中山 亨

あけましておめでとうございます。本日は商務情報政策局長の永塚が参る予定にしていたのですが、急にこの時間になって官邸に呼ばれました。正月早々官邸を中心に非常に激しく動きがあるものですから、代わりに挨拶をさせていただきます。

また併せまして、茂木新大臣も情報産業には大変ゆかりの深い方で、この賀詞交換会にもできれば顔を出したいと申したいのですが、こちらもあいにく参ることができませんでした。ただ、皆さまにくれぐれもよろしくお伝えしたいという言葉をしていただきましたので、ここで責任を持ってお伝えしたいと思います。

情報サービス産業協会は、日本の情報サービス産業の発展に非常に大きな役割を果たしてきたと考えています。浜口会長のリーダーシップのもと、会員企業が一致団結して進んでこられたということだと思います。また、のちほど二回目でございますが JISA Awards の受賞の発表もあるようでございます。受賞されることになっている二社の方に心よりお祝いを申し上げたいと思います。

振り返ってみると、東日本大震災から二度目の正月ということになるわけですが、被災地ではまだまだ多くの被災者の方々が避難生活を強いられていますし、被災地の復旧・復興はますます加速させていかなくてはならないというところがございます。また、日本経済全体を見回しても、少し顔色が明るくなってきたものの、長く続いた円高を始めとするいわゆる六重苦の中で、特に製造業を中心にきわめて厳しい経営を強いられています。

ただ、そうした中で、昨年末の選挙を経て新たに誕生した安倍政権は、経済再生・景気回復を最大の使命と言っていますし、昨日も第一回の日本経済再生本部の会合が開かれたということです。非常にわかりやすい説明だなどと思って我々も感心しているのですが、金融・財政・成長戦略を三本の矢として、今週中には経済対策をまとめる。今月中には 25 年度の予算案を取りまとめるということで、われわれスタッフ一同、正月も予算策定の作業に忙殺されてきたところです。さらに経済再生本部の下には産業競争力会議、規制改革会議が置かれて、成長戦略を策定することになっています。このように、我々から見ても大変なスピード感をもって動きが発信されています。日本経済に対する安倍政権の強烈な危機意識と熱意は大変なものだと見て取れるわけで、ここにきて株価が上がって一万円台を回復しているというのも、そういう熱意



に反応しているのかなと思っています。

一方、情報サービス産業ですが、いろいろな構造変化の中で、市場成長率の鈍化ということもありますし、厳しい環境が続いております。ただ一方で、新しい資源とも言われているビッグデータが使えるクラウド環境は確実に整備されてきており、新しい技術に基づく新しいビジネス・新しい仕事の仕方へと移り変わっていく、ある意味いいチャンスなのかなと思っています。経済産業省の私どもの局でも、IT融合フォーラムという形で有識者に集まっていただいて、クラウドでつながる情報システムの中で、さまざまなデータを情報にして、いかに産業の利益の種にしていくかということを一所懸命考え、そのための制度整備、権利関係の調整などを進めていきたいと思っています。

一方で、これまた年末以来いろいろお騒がせしているわけですが、標的型のサイバー攻撃や遠隔操作ウイルスなど、IT やネットワークの負の面もクローズアップされてきているのが昨年・今年ということでもあります。IT の安心・安全を確保するために、こういったサイバー攻撃に対する情報共有の仕組みを立ち上げ、一層強化し、セキュリティ人材の育成にも積極的に対応していくということで、補正予算の中にも盛り込んで早急に進めていこうと考えているところです。

この数日間、お招きいただいて参加した賀詞交換会で、へび年というのは脱皮をするということで、新しい一歩を踏み出していく年に大変ふさわしい干支だということをお伺いしてまいりました。12年前のへび年は2001年でした。2001年が始まったとき、ちょうどこの業界はドットコム・バブルの最盛期で、非常に元気よく始まりました。しかし、4月にアメリカでドットコム・バブルがはじけたところから世の中がおかしくなり、一回り前のへび年は竜頭蛇尾に終わってしまいました。今年が決してそういうことにならないように、竜の頭で始まった年が堂々たる蛇の一年を過ごして、来年は馬が控えておりますので、さらに飛躍の年につながっていくように、皆様方のご発展とお集まりの皆さまのご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 乾杯挨拶

独立行政法人 情報処理推進機構  
理事長 藤江 一正

皆さん、あけましておめでとうございます。また、いま JISA Awards を受賞された二社の方々、本当におめでとうございます。

申し上げたいことが二つあります。一つは、先ほど浜口会長から自動車の自動走行は夢があったというお話がありましたが、今年の 10 月には間違いなく皆さんの目の前でもっとすばらしい形でデモンストレーションできるようになると思います。経済産業省にもバックアップしていただいているのですが、10 月 14 日から 18 日までお台場を中心に ITS の世界会議があります。その中で、トラックの隊列の自動走行をデモンストレーションでやることが決まっています。私はそちらの方の企画・運営にたずさわっていて、間違いなくやらせていただきます。これは必見の価値があるのではないかとということで、ご案内させていただいたということが一つです。



もう一つは、IPA と JISA はこれまでもまして定期的に連絡を取っているのですが、先日われわれの会長とご一緒させていただいた時の会議で、情報システムの調達について改善の要望を JISA として取りまとめて出したところだ、というご説明があったと思います。これは、上流から下流まで細かく契約が切れていて、すべて入札でやるという制度が一番根幹にあると思うのですが、それ以外にも例えば仕様書の標準化が進んでいないということが大いにあると思っています。そこは IPA の技術標準の TRM を各省庁に参照していただいて、だいたひ仕様書の標準化が進んだと伺っています。また、IPA フォントなども標準化という意味でいろいろお役に立っていると思っています。

IPA 自身、今までの雲が明るくなってきたことを感じて、今年一年 400 人の職員でがんばろうという話をこの間したのですが、お互いの協調の中から問題を解決していくことを、是非今年はがんばってまいりたいと思っています。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、JISA の会員各社のご発展と、ここにいらっしゃる皆さまのご健勝を祈念いたしまして杯を上げさせていただければと思います。乾杯！